

2023年 年頭のご挨拶

熊本経済同友会 代表幹事 笠原 慶久



新年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

2023年スタートはコロナ渦となって4年目を迎えることとなりました。これからは「医療、経済、社会を如何に回していくのか」というステージに入りつつあると考えます。

そのような状況の中で、熊本経済発展に向けて「投資のすゝめ」と、同じ投資でも質の異なる「人への投資のすゝめ」という二点のキーワードについてお話を致したいと思います。

まず一点目「投資のすゝめ」について述べたいと思います。

2022年の熊本県のGDPは、推計で6兆4000億円を超え、コロナ禍前を上回り過去最高となったと思います。そして今年は、引き続き、全国平均予想を上回る成長が見込まれ、名目GDPは6兆6000億円と再び過去最高を更新する予想であり、他県からは羨望のまなざしで見られています。しかしこの絶好のチャンスを本年度以降、ものにするかどうかは、個々の企業の行動にかかっています。何もしなければリターンが無いどころか流されてしまいます。変化に適切に対応し、熊本に訪れている好循環を自らに取り込んでいく必要があります。

私はこのチャンスを活かすために「ある程度リスクも取りながら、自ら動き、投資をしていきましょう」ということを申し上げたいと思います。

二点目のキーワードとして、「人への投資」が大切だということを申し上げたいと思います。これは様々な意味がありますが、大きくは処遇向上と教育育成の二つの面で人に投資しようということです。人口減少下での経済成長は人材不足になるわけで、そこでは少人数で高い付加価値を生むための生産性向上が必要であり、これは働く人から見れば所得を高めることでもあります。これが「人への投資」の一つ目です。そして次に、SDGsやDXなどの大きな変化やTSMCなどのチャンスに対応するためには、教育によるリスクリングや人材育成が重要となります。「教育に投資する」、それが「人への投資」の二つ目です。

今、熊本に到来している大きなチャンスを持続的好循環に転換できるかどうかは、私達に懸っていると言っても過言ではありません。力を合わせて、兎年の2023年を、熊本経済全体を大きくジャンプアップさせる年にしましょう。